

## 4. その他資料（城内施設変遷一覧表）

表4 城内施設変遷一覧表

M=明治、T=大正、S=昭和、H=平成を表す

番号	施設の名称	設置年	撤去または移設年	概要	経過	備考
1	松江監獄署	明治11年 11月	昭和41年	M9.3 牢獄及び懲役場を内中原に新設することを内務省に稟議。内務省9月に許可。M11 御花畑に新設。M12 外中原の監獄2棟を松江監獄署内に移す。 M13.1.4 各地にあった監獄署の本署を松江に定める。S33に移転が決定し、S41 西川津に竣工移転。		
2	茶店	明治21年 4月17日 明治22年 6月16日	昭和48年 及び 平成4～6 年	S48 一ノ門下の茶店2軒(亀松亭、千鳥)を移転。 二之丸に所在する茶屋については、H4 千鳥庵と合意。 H5 布袋茶屋、亀松亭、友松亭と合意。 H6 城山みやげ品店、二松亭と合意。	城山二之丸・本丸に仮屋を建て飲食に供する許可が料理屋・すし屋・菓子屋など10人ばかりに出される (M21.4.17 山陰新聞) 昨日、城山二松亭で慰労会 (M22.6.17 山陰新聞)	大正時代一ノ門下枅形の亀松亭全焼 移転問題発生。 S35～36 亀松亭ボヤ移転問題再燃。
3	西南の役戦死者慰霊碑	明治21年	明治36年 移設。 その後復旧。 現存。	M21.5 西南戦争記念碑の式典を開催し、天守も会場になった記事有(山陰新聞)。興雲閣建築のため、本丸天守西側に移設。		M20.10.19 西南戦争記念碑の建設近日着手の報道有。
4	松江電燈株式会社	明治28年 4月	明治34年 及び明治 35年	山本誠兵衛、織原万次郎らが株主60余名で設立。資本金3万5千円。出力34kw。社長は桑原羊次郎、支配人 山本誠兵衛。従業員20人。10月から電柱25本で250余灯に送電。 M34に本社を南田町へ、火力発電所も同所に移転。	行啓の御旅館が、三之丸に建設される方向で、検討されていたため、発電所の騒音が、御旅館の環境に悪いとして、移転計画が持ち上がる。 南田町(大橋邸跡)にT元年火力発電所建設しT6から「出雲電機」と改称。 戦時中は中国配電、戦後は中国電力に統合。現在に至る。	現在、椿谷に記念碑が残されている。 因みに、日本最初の火力発電所は、M16の東京電燈、水力発電は、M25の琵琶湖疏水による京都の発電。
5	私立松江図書館	明治32年 10月	昭和21年 10月 昭和42年 ～43年	M32 先覚者木幡久右工門等によって、松江市母衣町に私立松江図書館を創設。M33に松江城三之丸に新館舎を建設。T8 松江市に寄付移管。松江市図書館として発足。 S20 太平洋戦争熾烈のため川津村に疎開。 S21.4 運営上の理由から県に移譲。 S21.12 朝酌村から青年修練場を城山二之丸下ノ段に移築改造。島根県立松江図書館として開館。 S21.12.4付で島根県図書館長から市長に図書館建設敷地の使用願いが提出されている。使用期限はS26.3.31までで無料貸与。	S25.12 島根県立図書館に改称。 S41.4 県立図書館建設委員会を設置。基本計画を樹立。現在地でS42.10起工式(設計 菊竹清訓)。S43.10竣工落成。	

番号	施設の名称	設置年	撤去または移設年	概要	経過	備考
6	積上道路と馬洗池から松江神社までの道路	明治40年	昭和12年7月31日積上道路撤去 昭和12年8月31日自動車道の整備	大手前入口から興雲閣までの行啓用積上道路は、神国大博覧会開催のため撤去する。馬洗池から松江神社までの道も博覧会のための自動車道路として整備。		行啓の城山新道路建設費等に対して4千円の寄付。寄付総計で1万2千円の記事(山陰新聞M40.5.11)
7	三之丸県庁舎	明治42年	現県庁は昭和34年竣工	明治維新後～M4 廃藩置県までは、松平定安が知藩治となり三之丸で執政。廃藩置県後は、M5 三之丸南内堀外側(旧御鷹部屋)の松平直応邸を改造して建築したのが初代県庁。二代目は同地でM12.1.27竣工し、新庁舎で開庁。三之丸は畑地として活用されていたか?(M20.5.18, M21.3.26, M21.7.16 山陰新聞)。県は三之丸を、松平家から借地し、M42に3代目県庁を建設。その後、S20に焼失。4代目S26.6に竣工。S31.12 4代目度焼失。5代目現庁舎は、S34.1に竣工。その前年、S33旧県立博物館(現島根県公文書センター、竹島資料館)竣工。	「県庁周辺整備計画」S34～S45により整備。	
8	松江城碑	明治43年 5月5日	現存	松江開府300年祭に際して、天守前に高さ6尺幅4尺の自然石で松平伯の撰文並びに篆額を設置の記事。		
9	武徳殿	明治44年	昭和48年10月	城山の敷地に武徳殿を建設。京都の武徳殿の様式を取り入れた立派な建物だった。島根県警体育館として利用するため整備したが、一般開放した。	S31の城山公園化に伴う整備計画が持ち上がりS42.2に武徳殿とテニスコートの廃止が決定した。武徳殿は、S48.10解体撤去された。	
10	山陰鉄道連絡記念物産共進会主会場	明治45年 4月30日		M44.11.9の記事:来年5月城山で開催の物産共進会は、二之丸練兵場内、武徳殿前に建設予定で10間に34間の武徳殿式平屋造りの建坪で、目下市役所で設計。工費7千円の見込み。 M45.5.20の記事:本日開会式を興雲閣で挙行。陳列本館は、武徳殿前の本館は、昨年12.7.起工、4.30.竣工。欧州古代のルネッサンス様式で、広壮且つ優雅。面積371坪。工費6,880円。玄関入口は正面。美術館は、興雲閣と白湯尋常小学校。	共進会場処分方法の記事(T2.9.19 山陰新聞)当該地は、商業学校の運動場に充用されているので学校では、不便を訴えている。建物も一部損傷していることやペンキも剥がれているが、不用建物を修繕することはできない。翌年、松江藩祖250年祭、今上天皇即位式挙行の際、記念共進会開催の計画もあるので、それに使用する下心あのでまず、共進会の開否を決定し、開催となれば修繕する。招魂祭の休憩所として来賓男子は、興雲閣。婦人は二松亭。遺族は旧共進会場(T2.10.5 山陰新聞)	

番号	施設の名称	設置年	撤去または移設年	概要	経過	備考
11	城山二之丸運動場	大正3年以前		M19. 2、3月の山陰新聞記事では二之丸跡芝地で運動会、二之丸跡で運動会、二之丸米倉跡で運動会と表記が統一されていない。M20. 4 二之丸操練場で運動会、5月二之丸練兵場と表記。その後の記事も操練場と練兵場の記事有。9月の記事では、二之丸師範学校附属操練場で秋季馬会開催。(山陰新聞) 商業学校は、M40. 5. 1 二之丸運動場にて、行啓準備の運動準備をなせり(松陽新報)。M4. 5. 3の山陰新聞によると二之丸練兵場に行啓用の馬の厩車等を建設の予定。12~13日に竣工予定とあり練兵場と表現している。二之丸運動場と同一か? 山陰オリンピック大会(松江市連合青年会陸上大運動会)は、T2から開催。初回は、完成間もない白濁埋立地。T3, T4は、二之丸運動場で、T5から末次埋立地で15回大会までを開催。16回(S14)から、新設の昭和運動場(西川津町)に移行。	島根県商業学校について:M33. 5 殿町171番地に「島根県商業学校」を開校。間もなく273番地(現松江歴史館南、松江キリスト協会敷地)に移転。M35. 4 外中原46番地を借用し移転。その後M36. 4 旧島根県師範学校校舎(殿町8番地 現島根県警察本部庁舎・県庁南分庁舎等)に移転。S3. 3 西津田361番地に新築移転。殿町に所在する間は、二之丸運動場は商業学校運動場も兼ねる。	S4 西川津に昭和運動場建設(現北公園)。山陰初の公認陸上競技場となった。S52の上乃木の総合運動公園完成まで、使用される。
12	警察官鎮魂碑	大正13年10月	現存	二之丸下ノ段に所在。		
13	松平直政銅像	昭和2年10月7日	昭和18年11月	彫刻家米原雲海と弟子石本暁海の作。台座は伊藤忠太(明治~昭和期の建築家。東京帝国大学名誉教授。法隆寺が日本最古の寺院建築物であることを学問的に証明。「日本建築史」を創始。「造家」という言葉を「建築」に改めた。)	太平洋戦争の金属供出。H5に国庫補助を得て、台座を城外に搬出、搬出場所も土地購入。H21. 11 三之丸埋立地に再建。	台座は、平成に入ってから銅像再建のため本丸から撤去し保存。
14	岡崎運兵衛銅像	昭和5年設置 38年再設置	H5以降	太鼓櫓付近に設置。第二次世界大戦中に金属供出で銅像のみ撤去されたが、S38 二之丸に再建された。		
15	ラジオ塔	昭和7年	H6	二之丸御殿中、興雲閣前のラジオ塔灘町 NHK 玄関横に移設。		
16	テニスコート	北之丸 昭和7年6月25日竣工検査	昭和11年に撤去。	S14. 10. 22の直政公御手植の松損傷報告に添付された図面には、北の丸(現護国神社)内にテニスコート2面と建物2棟が記されている。S11から招魂社建設が始まるため二之丸下ノ段にコートを移設した。	S11. 8. 26 城山松江庭球場から昭和運動場(川津)に倉庫と便所を移転する起案あり。S12. 3. 31に移転の支払命令有。	
		二之丸下ノ段 昭和24年4月30日	昭和50年迄に撤去。	S24. 4. 30 二之丸庭球場完成と記載(「松江市誌」) S40. 8. 15 城山二之丸コートで第一回松江市民庭球大会を開催している。	S45から環境整備5カ年計画を立案し、S47~49に二之丸下の段(米蔵跡・御小人小屋)など発掘調査を実施した。調査成果によりS50に米蔵遺構の平面表示を行った。	H2 北公園にグリーンサンドコート4面を設置し北庭球場が完成。

番号	施設の名称	設置年	撤去または移設年	概要	経過	備考
17	松江護国神社	昭和13年 10月15日	現存	S10.6 島根県招魂社建設奉賛委員会が組織され、創建費10万円のうち2万円を市が負担。市設の庭球場地に建設。S11.8 歩兵63連隊などの労力奉仕で整地。S13.10.15 創建。松江招魂社と称する。祭神は、出雲隠岐の戦病没者2,313柱。	S14.4. 松江護国神社と改称。戦後の神社行政の変革により S21.9.17 島根神社に変更。戦後の講和条約発効により S28.12.22 再び松江護国神社とした。現在合祀者は22,916柱。	
18	島根自治会館(県町村会)	昭和21年		自治会館は、S32.2の白鳥会館完成までに移転実施と計画あり。実際はS36の竣工により移転か?	市有地貸付について:島根自治会館増築敷地として、島根県町村会に無償貸付することを市会案件として提出する。(S23.3.24 稟議、3.29 決裁)、増築を許可する稟議有(S24.10.24 稟議、10.26 決裁、11.7 施行) 松江市誌年表にS36.11 島根自治会館(殿町)竣工とあり。	
19	援護寮(城山寮厚生寮)	昭和23年 3月	平成4年3 月解体	「松江市誌」H元付録の年表では、S21.11.15 市立城山寮を開設とある。しかし、本文中(P746)では、S33 生活保護法に示す宿泊提供施設として、定員60名の「市立城山寮」が殿町に設置されたが、時代の進展に伴い必要性が薄れ、S39 廃止されたとなっている。一方同誌P302には、S23.3に要保護者のための城山寮を城山堀端西側に設立とある。「史跡松江城環境整備指針」では、「援護寮」が昭和22年から26年に新築。H4.3. 解体となっている。	設立場所も図面と合致していることから、P302の記述のとおり S23.3 設置の信頼性が高い。	S25 頃の城山整備計画図では「厚生寮」と記載。H元の「松江市誌」では「城山寮」。「史跡松江城環境整備指針」では「援護寮」。
20	弓道場	昭和23年	昭和45	二之丸下ノ段に所在。		
21	パレーコート	昭和24年 完成 昭和26年 改修増設	昭和42年 廃止 昭和44年 撤去工事	S24 城山椿谷コート完成。第一回中国5県大会開催。S26、4面から6面に改修し、全国大会を誘致。S26~36までに5回の全国大会を誘致。	S43 国庫補助事業として、後曲輪の整備事業を実施。内容は、パレーコートの撤去・土塁を江戸末に復旧。周辺植生に倣って整備。S44.2.15 着手。S44.3.20 竣工。	
22	島根県職員会館(島根県職員組合)	昭和24年 設置 昭和23年 無償貸与 起案 昭和24年 7月19日 ~昭和25 年3月31 日まで許 可	平成7.1	建設予定地を無償貸与することを市会の議案として提出する。	史跡区域内建物撤去について(S27.5.20 稟議、6.3 施行) 県立図書館、島根自治会館、島根県職員会館宛文書送付文部省文化財保護委員会から勧告があったので建物を撤去されたい。それに対して、県職労執行委員長名で、一旦許可され多額の経費をかけた建物を簡単に撤去することに承服できないと拒否。	宿泊もできる厚生施設。
23	松江市警察署	昭和24年 10月	昭和40.12	三之丸堀南外側に建設。		

番号	施設の名称	設置年	撤去または移設年	概要	経過	備考
24	三之丸内堀埋立	昭和24年		松江市警察署新庁舎建設のため表門南側及び内部の内堀は、S24に埋立。		
25	椿谷公園	昭和25年7月18日起案		建設省の都市復興事業(公共施設整備事業)で、椿谷の公園整備を実施。起案分では、S5(S4?)の本多静六博士の設計に従って整備するとの記述。内容は、シーソー等の運動器具、藤棚、椿桃等の植栽、遠路と排水溝の設置。	S26.5.31付建設大臣宛竣工認定申請有り。	
26	自衛隊島根地方連絡所	昭和31年8月1日?		S38.12松江市建築課調整の城山内のトイレ設置図面の配置図に県立図書館とその南に自衛隊が記入してある。H元発行の松江市誌の付録「松江市年表」に城山大手前に自衛隊島根地方連絡部設置とあり。	S62.12現在では、自衛隊島根地方連絡部は、殿町192番地で現在の物産館周辺に所在した。	
27	青年新聞社	昭和32年2月		青年新聞社は自治会館移転と同時に移転実施		
28	本丸多聞櫓	昭和35年11月5日	現存	天守の修理古材等を使用。		
29	島根県立図書館	昭和42年10月	現存	御花畑に所在。	「県庁周辺整備計画」S34～S45により整備。	
30	城山公園管理事務所	昭和45年1月改築	現存			
31	動物園(鳥小屋、猿小屋)	昭和48年以前	平成4年6月	番所跡地にあった鳥小屋を撤去。その後、発掘調査を実施し調査成果を基に遺構を復元し、公衆便所とした。「子供博覧会」の開催内容について、陳列館は興雲閣他2所となし、天守閣下芝生の各所に建設。一部は本館内に配置。動物園は、本館の下壇東北側友松庵の全面一帯石垣の上に設け、竹垣と金網で長方形の檻を作りこれを十数区に分け、尚その間に池水を設け各種の鳥獣を放つ。	S47年度に国庫補助で実施した大手前駐車場の堀川暗渠通水工事の図面には、二之丸の動物園が記載されている。	M44.4.23の山陰新聞
32	入場料金徴収所	昭和58年9月	現存			
33	植生	全体		84樹種。3,206本。		
		サクラ		M22.3.11二之丸公園は昨年以來桃桜の植樹がなされたが、花木の植樹が再びなされ、梅の寄贈が多い。		
		マツ		M21にこの年天守閣修理。籠手田知事松の記念植樹を行う(「旧藩事蹟」)		
		ツバキ・ウメ・モモ		M22.3.11二之丸公園は昨年以來桃桜の植樹がなされたが、花木の植樹が再びなされ、梅の寄贈が多い。		
		ヒトツバタゴ		S15に松江市奥谷町の杉坂治氏が松江市に寄贈したもの。		